

## 心を届ける「あいさつ」

例年より早い梅雨入り予想がメディアで報道されていますが、5月の中旬から下旬にかけ、本校では子どもたちが楽しみにしていました行事を実施しました。それは、2年生の遠足「ズーラシア にこにこ たんけんたい」と4年生の「愛川高尾体験学習（宿泊）」、6年生の「日光修学旅行（宿泊）」でした。いずれも天気に恵まれ、子どもたちの学校生活の思い出の1ページとなったことと思います。

さて、4月に着任して以来、心掛けていることがあります。それは、登校してくる子どもたちを校門で迎えることです。自分の学級担任時代は、子どもたちの登校時刻より少し前に教室に入り、教室に入ってくる子どもたちに「おはよう」と声を掛け、その反応を観察していました。いつもと異なる反応や雰囲気を感じた時には、いつも以上にその子を気遣うように心掛けていました。そのような経験もありまして、荇田西小の子どもたちの登校時の様子を少しでも知ろうと思い、校門に立ちました。学校行事等で不在の時以外は、毎日、門の外に出て子どもたちに「おはようございます」と声を掛け、迎えています。校長が子どもたちに「おはよう」ではなく「おはようございます」と丁寧に挨拶をすることに違和感を抱く方もいるかと思いますが、子どもたちにとって、私自身がよりよい言語環境であるべきと考え、特に学年の低い子どもは、「おはよう」と挨拶をすると「おはよう」と返すことが多いこともありまして、意図的に丁寧に挨拶をしています。とは言え、時間がかかるかもしれませんが、子どもたちには、相手や場に応じた挨拶が自然にできるように働きかけたいところです。

また、荇田西小の子どもたちが挨拶を返す率が低いことも4月当初は気になりました。しっかりとカウントしている訳ではありませんが、挨拶を返してくれる子どもは、感覚的には3割程度でした。2か月間継続してみまして、挨拶を返してくれる子どもが増えてきたように思います。

中学校で配付しています「中学生のための礼儀・作法読本」に、あいさつについて次のように書かれています。

あいさつは、気持ちを表す「形」でもあります。表情豊かに、相手に自分の気持ちを伝えましょう。気持ちのよいあいさつは、あなたの人間関係を広げたり、深めたりします。～「笑顔」も「言葉づかい」も「心の表現」です。人は、最初はこの「心の表現」で、「この人はこんな人だろう」と、判断します。

また、心のこもっていない表現は、それが伝わり、周囲を不快にします。

これから、みなさんは、日々の生活の中でたくさんの人と出会います。そのときに、「心の表現」を大切にすれば、その後の人間関係も豊かになるはずです。

出典「中学生のための礼儀・作法読本」横浜市教育委員会

「あいさつ」は、人づきあいの基本です。笑顔で明るく、元気よく、心をこめてあいさつができる人に育てていきたいと思っています。